



志津南 news

志津南ホームページ
http://shizu373.net

志津南学区の人口 (11/30 現在)
世帯数 2,273 総人口 6,270 人
発行
志津南学区まちづくり協議会
Tel(fax) 077-563-6206
E-mail shizuminamimachi@gmail.com

回顧 わが町 2017

- 【1月】**
15日 ・ 追分南町内会が追分町内会と追分町グラウンドで合同左義長。住民、町役、宮総代が無病息災願う。
21日 ・ 志津南学区社会福祉協議会が「認知症サポーター」養成講座開催。認知症の正しい理解深める。
- 【2月】**
1日 ・ 志津地区社協が「絆」視察。28日にも鈴鹿市若松社協が視察研修で来所。
9日 ・ 奈良市自治連合会会長らが志津南まち協視察。同市のまち協立ち上げに向けての先進地研修の一環。
19日 ・ 体育振興委員会が第1回ボウリング大会をA C T 草津エースレーンで開催。小学生ら 87 人が参加。
- 【3月】**
21日 ・ 志津南学区社協が先進地福祉研修で高島市社協を訪問。
22日 ・ かがやきの丘子ども会が滋賀県立アイスアリーナでお別れ会。
- 【4月】**
1日 ・ 志津南市民センター（公民館）が「志津南まちづくりセンター」と改称、まち協の管理運営に。
23日 ・ まち協 29 年度定時総会開催。新会長に花澤仁左門氏（若草4）を選出。
- 【5月】**
23日 ・ 志津南小学校が地域ボランティアなどの協力を得て授業の一環として伯母川で魚捕り。
- 【6月】**
11日 ・ 草津市の第 20 回スポーツレク（野村運動公園）に大縄跳びなど 3 種目に参加も順位戦に進めず。
24日 ・ まち協が 5 力年行動計画策定と事業見直し検討委員会の初会合を追分南会館で開く。
- 【7月】**
12日 ・ 追分元気クラブが追分南会館で演芸サロン開催。大道芸などを楽しむ。
29日 ・ 第 20 回志津南ふれあい夏まつりが若草中央児童公園で。琵琶湖周航の歌 100 周年も祝う。
- 【8月】**
20日 ・ かがやきの丘町内会が北公園で第 7 回かがやき夏まつり開催。模擬店や金魚すくいなどに人気。
- 【9月】**
18日 ・ 志津南社協が志津南小体育館で敬老会開催。223 人が人形浄瑠璃などを楽しむ。
22日 ・ 志津南まち協が実施、回収したまちづくり「住民アンケート調査票」を花澤会長が分析を依頼した立命館大学担当者に手渡す。
24日 ・ 追分南町内会が追分町内会と第 24 回親善レク大会を共催。綱引きなどで熱戦。
- 【10月】**
6日 ・ 志津南まち協がまちづくりセンターで「市長とトーク」開催。山手幹線の学区内通過で通学の安全確保を要請。
28日 ・ 若草・岡本西子ども会がまちづくりセンターでハロウィンイベントを開催。キャンデーや紙コップづくりで盛り上がる。
- 【11月】**
12日 ・ 若草・岡本西自主防災連合会が中央公園で総合防災訓練を実施。161 人が災害救助工具の取り扱いなどのほか、要援護者の安否確認も。
19日 ・ 南草津駅西口で開催の「みなくさまつり」にふれあい推進委員会がたこ焼き屋台出店、人気呼ぶ。
- 【12月】**
4日 ・ 志津南学区対象の滋賀県地域公共交通網形成計画の無料バス運行実験がスタート。医大方面や文化ゾーン方面の住民ニーズを探る。

集計作業を進める担当者ら



昨年秋に実施した住民アンケートの集計が依頼して

約9割が今の生活に満足 住民アンケート中間まとめ

いる立命館大学の手で進められていきます。これまでの状況をまとめていただきました。（志津南まち協）

◇ アンケートは世帯単位で1918部配布し、1506部を回収することができましたが、世帯ごと複数回の回答もいただいておりますので、実際に回答いただいた件数は2000件を大きく超えています。

現在、2000件までデータの入力を終えています。詳しい結果は、全ての分析が終わった時点でお知らせいたします。

まず「志津南学区での生活に満足していますか」という質問に対しては、満足が35%、やや満足が54%、合わせて約9割の方が志津南での生活に満足しているという結果が出ています。

具体的には「利便性がよい」「緑が豊かで閑静」「ご近所の方が親切」などといった意見があります。他方で不

満足することになります。今回は作業の途中経過報告を兼ねて、いくつかの項目をピックアップして、そのおおまかな傾向をお伝えします。

「地域のみちづくりで重要視または期待していること」(複数回答)については、「良質な治安の維持」が5割を超え、ついで「移動手段や公共交通の充実、交通問題の解消」、「防犯・防災の状況提供や体制づくり」が3割を超えています。

最終的な調査結果は、志津南ニュース、ホームページ、報告書にて公表すると同時に、新しいまちづくり行動計画に反映させていく予定です。

地域の実情を知り、住民の皆さんとともにまちづくりを進めていくために、この貴重な調査結果を活かしていく必要など貴重な意見をお寄せいただいています。

満の回答として「学校まで遠い」「住民のマナーがよくない」などといった回答がありました。

次に「現在または近い将来で不安に感じていることは何ですか」(複数回答)という問いについては、「自分や家族の健康」が突出して多く、約半数の回答率となっています。その他、「自分や家族の介護」「防犯・防災」が4分の1ほどとなっています。

このように健康や介護・治安・防犯や防災といった点に住民の皆さんの関心ごとが現れていることが明らかになりました。

ことになりました。
(立命館大学講師宮下聖史)

公共交通に関するワークショップ開催
大津湖南エリア地域公共交通活性化協議会(滋賀県)主催の地域公共交通に関するワークショップが1月20日午後1時から、志津南まちづくりセンターで開催されます。

現在実施中の取り組みや検討を進めている地域の公共交通に関する計画についての意見交換会です。参加費は無料です。

27日に人権トーク報告会

人権教育推進委員会(田中香治委員長)は1月27日(土)午後7時から志津南まちづくりセンターで「人権トーク報告研修会」を開催します。

今回は第1部に人権トーク報告会を行った後、第2部として、滋賀自立生活センター代表の垣見節子さん、一般の砥谷三枝さんと「心触れ合う瞬間!ここに人があり、そこに笑いがあふれる」と題し、委員長との対談を予定しています。多数ご参加ください。

らんぷらっしょん

○：民生委員児童委員協議会(垣根和子会長)が12月7日、志津南まちづくり



センターでクリスマス会を開催、未就園児57人とその保護者52人が楽しいひとときを過ごしました。

ツリーやオーナメントで飾られた会場に子どもたちは大喜び。中にはサンタ姿のお友達も。

クリスマス会は3部構成。第一部は、委員による「おおきなカブ」の寸劇です。おじいさん、おばあさん、男の子、女の子、いぬ、ねこ、ネズミに扮し、ピアノに合わせ登場し、ストーリーを

わかりやすく演じました。引く張つてもびくとも抜けない「おおきなカブ」、そこで子どもたちに助けを呼びかけるதாகとくさんの子どもたちが一緒に引く張つてくれました。「うんとこしょ

どっこいしょ…」カブは見事に抜けて、子ども達も「やったあ」と笑顔になりました。最後は、みんなで「あなたとわたし」なかくよくたべましよう」と大きな声で歌いました。

第二部は、親子でクリスマス飾りに挑戦しました。リース台に見立てた紙皿に可愛いシールやリボン、鈴を付けて、オンリーワンのクリスマスリースが出来上がり

ました。できたリースを壁面のツリーに下げて素敵なツリーが完成しました。

第三部は、サンタさんからのプレゼントⅡ写真Ⅱ、みんなでクリスマスソングを歌いました。

「トナカイさん」と子どもたちが呼びかけると、愉快な動きのトナカイが登場。「サンタさんは？」の声にトナカイは「あれ？ みんなで呼んでみよう」「サンタさん」子どもたちの大きな声で次々とサンタさんがプレゼントを持って登場しました。一人ひとりにプレ

ゼントを手渡すと「ありがとう」と可愛い返事。最後はみんなで「あわてんぼうのサンタクロース」「赤鼻のトナカイ」のピアノに合わせ、鈴、タンバリンで盛り

マジックショーで盛り上がる



と何度も歓声上がり、キラキラした目でじっと見入っていました。子ども達も一緒にマジックに参加させてもらい、学生のユーモアたっぷりのマジックショーを、楽しみました。

その後は、針金素材のリースを使い、好きな形に曲げたり、装飾したりして、思い思いのクリスマスリース作りを楽しみました。リースをそれぞれに個性が出て、面白かったです。

イベント最後にはビンゴゲームで盛り上がり、子どもたちみんなクリスマス会が大満足でした。今回のクリスマス会は、久しぶりに

追分南子ども会とフォレストローズ子ども会合同のクリスマス会を志津南まちづくりセンターで開催、子ども68人、役員17人、総勢85人が参加しました。目玉は、立命館大学芸術部サークルの4人が行う「マジックショー」でした。写真。初めに学生から「知っている、見たことがある、見えている」の3つの言葉を言わないように約束してくださいと言われました。約束をやぶる子はほとんどおらず、「ワー、すごい」

場を紹介することが出来ました。子どもは地域の宝。これからこの大切な宝の健全な成長を、見守り続けていきたいと思えます。

会連合会として進めていく方向です。

ゲストにアカペラ

○：かがやきの丘子ども会は12月16日、クリスマス



会を開催し、100人を超えるお友達が参加しました。ゲストは、立命館大学アカペラサークル「Song Angels」のみなさん。アンパンマンマーチや、アナと雪の女王、クリスマスソングなど、子どもたちが知っている歌を本格的なアカペラで披露してくれました。写真。恋ダンスは子どもたちも一緒に踊って、大変盛り上がりました。質問コーナーも設けていただき、アカペラグループの一人ひとりの役割や、どんな音や声が出ているのかなど説明してもらって、アカペラが身近になったのではないかな、と思います。最後にプレゼントを配って、閉会となりました。

自作ケーキ楽しむ



○：若草文庫では12月20日、第三集会所でどんぐり

クラブとクリスマス会を楽しみました。未就園児と保護者、小学生、ボランティアなど30人が集い、クリスマスツリーを囲んで、チョコ、ポッキー、イチゴなどで自分流にデコレーションしたロールケーキをおいしく食べました。写真。横の公園では、ボランティアの立命大のお兄さん相手に「ダルマさんが転んだ」と走り回って楽しく遊びました。

Merry Christmas

サンタがまちにやって来た

今年も町のあちこちで、日頃の仲間が集まって「クリスマス会」が開かれました。ツリーを飾って、一緒にクリスマスソングを口ずさむだけで、なんだか心が浮き立って来るから不思議です。

こだわりの演出でXマスコンサート

○：志津南まちづくりセンターは12月13日、第7回



やすらぎ学級「クリスマスコンサート」&クリスマス会を開きました。演奏者の村井さん(クラシックギター)・木下さん(シャンソン)・宇崎さん・牧野さん(クロマチックハーモニカ)の4人を迎え、学級生34人が参加しました。写真。

美しくも優しい音色と歌声で名曲の数々を披露していただきました。次々と演奏される盛り沢山のプログラムに、学級生も大変喜びました。

ました。学級生からは「こんなクリスマス会は初めて子どもに戻ったようで、本当に楽しかった」などの声を聞くことができました。また、講師を交えて和気あいいとケーキとお茶をいただきながら交流を楽しみ、「みんなで歌いましょう」のコーナーでは、学級生も元氣よくクリスマスソングを口ずさみ、楽しいひとときを過ごすことができました。

今年、サンタ衣装の職員が来場者を迎え、ウエル

コーギーも参加

○：かがやきの丘地域サロンなごみ会のクリスマス



カムボードを始め、クリスマスの雰囲気溢れる飾り付けや、ミラーボールライト

の照明など、こだわりの演出が会場全体を盛り上げました。会が12月21日、きらり会館で行われ、23人が集いました。

日差しがそぞろ屋下がり午後、若草、コーギーカーデンからの有志も参加し、村井教夫さん、早瀬正和さんのギター伴奏で懐メロやクリスマスソングなどを歌い盛り上がりました。写真。その後みんなでテーブルを囲み、ケーキを食べてクリスマスを楽しみました。

紙皿でXマス飾り

りを作りました。緑色の手形をいっぱいつけるとクリスマスツリーやリースに、白色の足形は雪だるまに。昨年より一回り大きな手形・足形で成長が実感できる世界に一つだけの壁掛け飾りが完成しました。会の最後は楽器がで



お母さん達で急ぎよ結成された即席楽団が、クリスマスソングを演奏してくれました。トランペットにトロンボーン、クラリネットの迫力ある演奏に子ども達の鈴やタンバリンの音が加わって、素敵なクリスマスソングが奏でられました。

クリスマス会を開催しました。紙皿にシールやリボンを貼り、大きなクリスマスツリーに飾りました。写真。民生委員児童委員と一緒に歌ったり踊ったり、サンタさんとトナカイさんからプレゼントをひとりひとり受け取り、握手や写真撮影など楽しめました。

お母さんが即席楽団

の照明など、こだわりの演出が会場全体を盛り上げました。会が12月21日、きらり会館で行われ、23人が集いました。



追分南子育てサークルは12月20日、追分南会館で15組の親子が参加するク

交通・防犯を啓発

交通防犯委員会(酒井裕義委員長)は、10月21日、スターグリーンビル店前、フレンドマート追分店前で、ポケットティッシュや啓発チラシ、ボールペン等を配りながら交通安全、防犯を呼びかけました。写真。

あいにくの雨でしたが、1時間ぐらいで1000個のティッシュを配り終えました。お客さんも笑顔の呼びかけに「ありがとう」と快くティッシュを受け取ってくれました。新しい年を迎え、新年会などでお酒を飲む機会も増えるかと思いますが、一人

子育てサークル若草ひよこっこ・おやこっこクラブは12月14日、志津南まちづくりセンターでクリスマス会を開催しました。写真。21組の会員が参加し、今年も恒例の手形・足形アート



一人が交通安全、防犯に気を配っていたり、よろしくお願いいたします。よう、よろしくお願ひいたします。



<10>

至る所に温泉

上甌島(かみこしきじま)へは串木野港から里港にわたり、観光はレンタカーで巡りました。この島は峭の足みたいに小さな半島がたぐさん突き出ていて入り江が多く、緻崎展望台からは黒潮が積み上げた砂州が弓なりに続いて出入りに富む「長目の浜」や「海鼠池」などが楽しめます。タツノオトシゴの形をした下甌島(しもこしきじま)

は中心的役割の手打港に上陸、最近建てられた宿に宿泊。島では宿の車を借りにて巡り、青瀬の「観音三滝」、長浜集落を経由して瀬々野浦海岸に出ましたが、急坂を降りると島一番の見所海岸の「ナポレオン岩」の勇姿が目には焼き付き、今でも



常態的に噴煙を上げている硫黄島

思い出します。島内の道路は大部分が曲がりくねった細い道ばかりで、運転操作に技術を要しましたが、手打の武家屋敷を散策し、何度でも訪れたいこの島を断腸の想いで離れました。

三島(竹島、硫黄島、黒島)村役場は行政的に便利な鹿

児島市にあります。渡島は非常に困難で、船便が二日に一回しかなく、嵐の時は出港しないことが

茶色になっていた(世界的に珍しい)ため、知識が無い私を含めた乗船客はみな驚愕しました。島には至る所に温泉が湧き出ている。この島に渡島した乗船客の大半が湯治客でした。黒島の大里港へは18人程上陸しましたが、観光客は私のみで、他は島民と電気工事の職人でした。レンタバイクを無理に頼み島内を一周、半農半漁で牛と馬が飼育されていました。民宿では夕食時、職人と一諸で話が弾みました。飲酒は自由にしていいとのことだったので、冷蔵庫からビール等を勝手にいただき、久しぶりに酩酊しました。

近江商人の町で買い物

社会福祉協議会ボランティアグループ泉(藤田清子代表)は12月18日、一人暮らしや居間一人の方たちとふれあいバスツアーを実施しました。



師走も半ば、今冬一番の

冷え込みもなんのその、元気な35人の参加者は市の福祉バスを利用して、近江商人の町へ出かけました。

快適に走るバスの窓外から冬日に光り輝く白銀の比良連峰を遠望しつつ近江平野を進む中、目的地であるJA経営の県下一の大型産直店「きてかくな(どうぞ来て下さいの意味らしい)」で新鮮野菜やふなずし、近江牛、棚につるされた寒干し大根など地元特産を買い込みました。



屋食は火祭りでは有名な日

群八幡宮近くのレストランへ写真。西勝酒造の酒蔵を利用した趣のあるレストランで、特産を生かしたメニューに舌鼓。古き商家のたたずまいの残る町並みとあとに満足し帰途につきました。

温泉・グルメの旅

追分南町内会「元氣くらぶ」は12月8日、長島温泉(冠二郎ショー)に行き、31人が参加しました。

8時40分に町内を出発して10時前に長島温泉に到着しました。入館後、温泉につかりほっこりした後、ハマグリ鍋で美味しく昼食をいただきました。その後、13時から冠二郎ショーを鑑賞して楽しい一時を過ごしたあと、復路に閑ドライブインに立ち寄ってお土産を手帰りしました。

お世話になった方々と収穫祭



12月8日志津南小学校の2年生128人が、サツマイモの収穫に感謝する収穫祭を行いました。写真。お世話になった方々を招

待し、名札やプレゼントをつくったり、出し物の練習に励んで当日を迎えました。運動会のダンスや「かほ

あらためて知る戦争の恐ろしさ

12月7日二校時、志津南学区在住の藤田昭郎さん、地域コーディネーターの和田基さんを迎え、6年生の子どもたちが戦争体験についての話を聞きました。写真。空襲の恐ろしさや友だち

「ちゃ」の演奏を発表した後、2年生の各教室にもどり、収穫したサツマイモの入った蒸しパンを一緒に頂きました。お世話になった方々に感謝の気持ちを伝えることができました。



してはいけないということ、を改めて思った」などの感想が聞かれると共に、「私たちがそのことを伝えていきたい」と、平和について自分たちができることまで考えることができました。

折々の記



志津南学区健康推進員連絡協議会(岡敬子代表)は12月9日、志津南まちづく



楽しくおやつづくり

りセンターで小学生を対象に「かんたんなおやつ作り」を開催しました。親子で27人の参加者がありました。最初に3色(赤・黄・緑)のフェルトパネルを使いバランスの良い食事の勉強をしました。分かりやすい説明だったので、朝食や毎日の食事の大切さがお母さん達にも子ども達にもしっかりと理解できたようです。

おやつ作りでは次の3品に挑戦しました。野菜のたっぷり入った「ケーキ・サレ」、さつまいも入りおもち、オレンジのゼリージュース。「とてもおいしかった」簡単な家で子どもと一緒に作ってみます」などうれしい感想が聞かれました。これからも喜ばれるメニューを考えて開催したいと思っております。次回もぜひ参加をお待ちしています。

昭和16年12月8日、大東亜戦争が始まりました。私は小学校6年生でした。この戦争が正しいとか悪いとか考えることも無く、ただ時代の波に流されるまま「お国の為」のローガンのもと、正しい戦争だと信じていました。

戦争もいよいよ激しくなってきた昭和18年、中学2年生(14歳)になると、学校では先生から、軍需工場とか軍隊に志願する様、毎日のように激しく勧められ、私は

18歳今昔

軍衛生兵として旧満州に、終戦後にはシベリアへ抑留され、終戦3年後復員して来ました。次兄は陸軍歩兵としてフィリピンに勤務し、レイテ島にて戦死致しました。22歳でした。終戦後その報を受け、母親は使者の方に、「ご苦労さんでし

70年後の今、当時を振り返ると、戦争は国民みんなを巻き込んで、自由も無く、不足していた衣食にも耐え、ただ国の為にと不平も言わず尽くして来た事が不思議でなりません。

今私には、5人の孫がいます。70年前の私の18歳頃とは、生活環境は比べ物にならない平和な時代ですが、こんな自由に羽ばたける、何もかも満たされた飽食の時代でも、満足している様ではありません。これも時代の流れでしょうか。(PNかたり米)